

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 広島県立 広島井口高等学校 (※正式名称を記載)
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}
☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注2} ☒ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒733-0841

広島市西区井口明神2丁目11番1号

E-mail: inokuchi-h@hiroshima-c.ed.jp

Website: http://www.inokuchi-h.hiroshima-c.ed.jp/

幼児児童生徒数 男子 386 名 女子 496 名 合計 882 名

幼児・児童・生徒の年齢 15歳～18歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、国際交流を活動テーマとして、ESDを国際理解活動と捉え、ESDの実践を通してコミュニケーション力の育成を目標とした。

具体的には、姉妹校との交流と修学旅行を柱に、①姉妹校の生徒・教員の受け入れに係わる活動、②姉妹校へ生徒・教員を派遣するプログラムに係わる活動、③修学旅行に係わる学習、④姉妹校生徒との文通に係わる学習を行った。

対象となる学年は、①1～3年生の希望者、②1～2年生の希望者、③④2年生全員である。

① 姉妹校の生徒・教員の受け入れに係わる活動

7月：姉妹校エリザベスカレッジ（オーストラリア・タスマニア州）より生徒9名・教員2名来校。9日間本校生徒宅にホームステイし、授業や課外活動を本校生徒と共に体験。

② 姉妹校へ生徒・教員を派遣するプログラムに係わる活動

4月：姉妹校アイエア高校（アメリカ合衆国・ハワイ州）を生徒2名・教員1

名が訪問。7日間アイエア高校生徒宅にホームステイし、授業や課外活動を体験。

7～8月：姉妹校エリザベスカレッジを生徒14名・教員1名が訪問。同校にて語学研修および姉妹校交流。

3月：姉妹校アイエア高校を生徒2名・教員1名が訪問。7日間アイエア高校生徒宅にホームステイし、授業や課外活動を体験（予定）。

③ 修学旅行に係わる学習：LHR（ロングホームルーム）と^{アクトアイ}ACTI（総合的な学習の時間）にて実施

4月：ハワイへの4泊6日の修学旅行について概要把握。（LHR）

6月：クロスアート（同じテーマのもとに描いた絵画を通して互いの文化を理解し、ものの考え方や感じ方の共通点・相違点を理解する活動）を姉妹校アイエア高校の生徒と行う準備として、絵と解説文の作成。（ACTI）

7月：ワイキキ班別研修について行動計画を作成。（LHR）

9月：ハワイの地理・歴史・文化・風習などについての学習。（LHR）

10月：ハワイ修学旅行で実際に様々な場所を訪れ、歴史・伝統文化・自然を体験し、平和学習や姉妹校アイエア高校との交流を実施。アイエア高校では、クロスアートを始めとする様々な活動をペンパルと共に体験。帰校後は、アンケートによる振り返りを実施。（LHR、ACTI）

④ 姉妹校生徒との文通に係わる学習：^{アクトアイ}ACTI（総合的な学習の時間）にて実施

6月：第1回ペンパルアクティビティ（アイエア高校への手紙）

9月：第2回ペンパルアクティビティ（アイエア高校からの手紙・バディ決定）

10月：第3回ペンパルアクティビティ（アイエア高校への手紙）

11月：第4回ペンパルアクティビティ（アイエア高校からの手紙&Xmasカード）

12月：第5回ペンパルアクティビティ（アイエア高校への手紙&年賀状）

2月：第6回ペンパルアクティビティ（アイエア高校からのValentine Card）



① の写真（エリザベスカレッジの生徒・教員を迎えて、本校生徒が歓迎会を実施）



② の写真（本校生徒2名がアイエア高校の生徒の前で、日本や本校について紹介）



③ の写真（修学旅行でアイエア高校を訪問し、クロスアートの活動を実施。自分たちの描いた絵について、ペンパルからの質問に答えている。）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 春期休業中及び夏期休業中)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

自主教材（本校で作成し、8年間程度継続して使用している）

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

2年生の総合的な学習の時間^{アクティビティ}ACTI(2)の中で、「国際交流活動を通して自己の視野を広げ、価値観の変革を促し、豊かなコミュニケーション能力を身に付ける」ことを目標に、ペンパルアクティビティやクロスアートという活動を取り入れている。これにより、本校在学中に生徒は必ず国際交流活動を体験することとなっている。また、本校の教育課程の中ではアクティブラーニングを積極的に導入している授業として推進役を担ってきた。さらに、生徒に育みたい資質・能力と授業のプログラムのマッチングにも取り組んでいるところである。同時に、本校教員が姉妹校の教員と連携を密に取ることで、文通活動やクロスアートの方法を工夫改善してきている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

総合的な学習の時間^{アクティビティ}ACTIの授業内容を検討したり学校行事や他の校務分掌との関係を調整したりするための役割を担う分掌^{アクティビティ}(ACTI)があり、毎回の授業の指導案や配付資料を準備したり、行事や時間割の調整を行ったりしている。また姉妹校交流については、総務部が日程の調整やプログラムの運営などを行っており、担当者が変わっても継続した取組ができる体制にしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

内部評価としては、生徒や教職員によるアンケートを実施している。^{アクティビティ}ACTIの授業では活動毎にアンケートを行い、学校行事については教職員にアンケートを行っている。外部評価としては、姉妹校でのアンケートや、学校関係者評価委員会での評価が挙げられる。

昨年度までは、一部の積極的な生徒しか国際交流に関わっていないという課題があったが、今年度は「国際交流委員」というボランティアのグループを発足させ、そのメンバーを中心として、姉妹校から来校した生徒や教員と積極的に関わる生徒が増加した。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

毎年2月下旬に発行している英字新聞“The Inokuchi Guardian”に、修学旅行や姉妹校交流の様子を記事にして掲載している。また、本校のホームページにも同様の内容を随時アップしている。それにより、本校が国際交流に力を入れているという知名度が上がっている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

英字新聞の発行に当たっては、地元の中国新聞社の多大な協力をいただいている。また、毎年JICA中国に本校生徒が訪問し、開発途上国の支援を始め異文化理解についても学習している。さらに、国際交流という視点だけではなく社会の様々な課題について生徒が探究を進めるために、近隣の企業や官公庁等に協力いただき、生徒が研修をさせてもらっている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

広島県ユネスコスクール連絡協議会等が主催するESD研修会へ参加し、他校の様々な取組に触れている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき(特に強調したい)内容(例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化)(200字程度)

※チェック事項 2-5 に対応

教員が個人的に実施する活動であれば、その教員の移動により指導法や指導内容は学校に蓄積されることがない。しかし、学校内の分掌(アクティ^{アクトアイ}や総務部)に活動の推進体制を位置づけることで、様々なノウハウを組織として蓄積し改善していくことができるようになった。

(3) 平成 30 年度の活動計画 (200～400 字程度)

今年度同様、姉妹校との交流と修学旅行を柱に、①姉妹校の生徒・教員の受け入れに係わる活動、②姉妹校へ生徒・教員を派遣するプログラムに係わる活動、③修学旅行に係わる学習、④姉妹校生徒との文通に係わる学習を行う。

①姉妹校の生徒・教員の受け入れに係わる活動

6 月：姉妹校アイエア高校（アメリカ合衆国・ハワイ州）より生徒・教員来校。

7 月：姉妹校エリザベスカレッジ（オーストラリア・タスマニア州）より生徒・教員来校。姉妹校交流 20 周年記念行事を行う。

②姉妹校へ生徒・教員を派遣するプログラムに係わる活動

4 月：姉妹校アイエア高校を生徒 2 名・教員 1 名が訪問。

7～8 月：姉妹校エリザベスカレッジを生徒・教員が訪問。

3 月：姉妹校アイエア高校を生徒 2 名・教員 1 名が訪問。

③修学旅行に係わる学習

LHR と^{アクトアイ}ACT I の授業にて、ハワイへの 4 泊 6 日の修学旅行の事前学習を実施。修学旅行中は、ハワイの歴史・伝統文化・自然を体験し、平和学習や姉妹校アイエア高校との交流を実施。アイエア高校では、クロスアートを始めとする様々な活動をペンパルと共に体験。帰校後は、アンケートによる振り返りを実施。

④姉妹校生徒との文通に係わる学習

6 月から 2 月まで合計 6 回の文通を、アイエア高校の生徒と実施。